Osaka University Knowledge Archive

Title	オンラインにおける大阪大学の国際学生交流の取組み : SDGs の実践でグローバル人材育成に向けて
Author(s)	李, 明; エンクトゥル, アリウナ; 張, 希西
Citation	大阪大学高等教育研究. 2022, 10, p. 13-20
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/87506
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

大阪大学高等教育研究　10（2021），13 − 20

【教育実践レポート】

オンラインにおける大阪大学の国際学生交流の取組み

― SDGsの実践でグローバル人材育成に向けて ―

李　明[※1]・エンクトゥル　アリウナ[※1]・張　希西[※1]

Promoting International Student Exchange Initiatives Online at Osaka University: For the Development of Global Human Resources under SDGs Framework

LI Ming[※1], ENKHTUR Ariunaa[※1], ZHANG Xixi[※1]

コロナ禍による全世界的な渡航制限により，日本の高等教育機関の学生交流やグローバルパートナーシップは大きな影響を受けている．高等教育者はデジタル化時代における「高等教育の国際化」とは何かを考えることになった．物理的な移動は減少した一方，パートナー大学とのバーチャル交流は拡大している．

本稿では，大阪大学グローバルイニシアティブ機構が主催した“3 Minutes of Inspiration for Sustainable Development”の学生動画コンテストと国際学生SDGsフォーラムの実践事例を紹介する．ウィズコロナの状況下において，オンラインという手法を活用することで，学生イベントとしても，周年記念事業としても，かつて例のない多様性と国際性をもつ，世界に開かれた学生交流の場を作ることができた．本稿の目的は，このイベントの実施の成果と課題を分析し，オンラインにおけるSDGsの実践でグローバル人材育成に向けて更なる発展する可能性を展望することである．

キーワード：学生交流，グローバル人材育成，SDGs，オンライン，新型コロナウイルス感染症

Over the last two years, the COVID-19's massive disruption on international exchange and global partnership at Japanese higher education institutions have been pushing educators to examine their way of delivering education, conducting research, and engaging global and local communities. As a global university rooted in deep local culture, Osaka University aims to promote SDGs both domestically and globally. The Center for Global Initiatives implemented an innovative student exchange program—video contest and student forum—with three main goals: 1. To promote student exchange with overseas partner universities 2. To encourage students to take active roles in promoting sustainable development, and 3. To foster innovative thinking and digital skills. The program, implemented in celebration of Osaka University's 90th anniversary and Osaka University of Foreign Studies' 100th anniversary, consisted of a student video contest and virtual online forum. Both events brought together diverse students worldwide under the theme of “3 Minutes of Inspiration for Sustainable Development”. This paper will introduce this program as a case of Osaka University's effort to promote international collaboration at student level. We will present some of the program results and identify the main challenges and future possibilities. We hope our example will be helpful for international educators in their efforts to promote global human resources in the era of digital skills by taking advantage of SDGs framework.

Keywords：Student exchange, Global human resource, SDGs, Online, COVID-19

所　属：[※1]大阪大学グローバルイニシアティブ機構
Affiliation：[※1]Center for Global Initiatives, Osaka University
連絡先：li.ming.cgin@osaka-u.ac.jp（李　明）

1. はじめに

コロナ禍による全世界的な渡航制限により，これまで日本の大学が取り組んできた学生の送り出し，留学生の受入れなど国際的な学生交流は大きな影響を受けている（近藤・石倉・中野，2020）．コロナ禍の影響はいつまで継続するのかは不透明な状況であるものの，日本の大学はデジタルテクノロジーを駆使し，教育や学習など多くの活動をオンラインに移行させている．オンラインによる新しい形態の学修の有用性が顕在化するとともに，新たな潮流の一つになっている[(1)]．ウィズコロナ時代・アフターコロナ時代の新しい国際学生交流のあり方の検討が必要とされている．

2020年12月から2021年6月まで，大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年の記念イベントとして，グローバルイニシアティブ機構は大阪大学の学生と海外協定校の学生を対象に，SDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした学生動画コンテスト“3 Minutes of Inspiration for Sustainable Development”を実施した．さらに，優秀作品の上映及び授賞式と併せ，2021年6月25日に国際学生SDGsフォーラムとしてオンラインで開催した．このイベントは3つの主要な目標を掲げた．1）海外協定校との学生交流の促進，2）持続可能な発展のために学生が積極的な役割を果たすこと，3）革新的な思考とデジタル技術の育成．

本稿では，本イベントの企画と実施を紹介するとともに，主な成果と課題を分析し，さらにSDGsの枠組みを活用し，デジタルスキル時代のグローバル人材育成に取り組む可能性を展望する．

2. 大阪大学におけるSDGsの実践でのグローバル人材育成

大学は，教育，イノベーション，研究を通じて社会の変化を促進する重要な役割を担っている．新型コロナウィルス感染症拡大により，国際教育プログラムや交流が停滞し，教育者はデジタル化時代における「高等教育の国際化」とは何かを考えることになった．物理的な移動は減少した一方，パートナー大学とのバーチャル交流を拡大している．大阪大学は，全学的な組織として「大阪大学SDGs推進委員会」を立ち上げ，そのもとに「企画部会」を設置し，全学体制でSDGsに本格的に取り組んでいる．「今や誰もが「弱者」になりうる時代に遭遇している」中，「誰一人取り残さない」を掲げるSDGsの重要性はますます高まっている[(2)]．物理的な移動，国境を越えた対面での国際学術交流と学生交流ができなくなった中，オンラインでの手法を活用し，海外大学との交流，オンラインでの交換留学，留学希望者向けのオンライン留学説明会など，オンラインでの知恵を活かし，様々な活動を絶えることなく展開してきた（張ほか，2020）．その一環として，SDGsをテーマとしての大阪大学「学生動画コンテスト」表彰式及び国際学生SDGsフォーラムをオンラインで開催した．

3. “3 Minutes of Inspiration for Sustainable Development”学生動画コンテスト及び国際学生SDGsフォーラムの企画と実施

3.1 概要と目的

気候変動，自然災害，感染症，紛争などの様々な地球規模の問題が経済・環境および社会に深刻な影響をもたらしている．さらに，急速に進む都市化や高齢化など，新たに顕在化した課題もある．こうした社会課題に対応するため，国連総会において17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられた．大学生はSDGsの目標達成に向けて，社会問題の解決にどう貢献できるかを考え，新型コロナウイルスの流行で移動が制限され，友人と会えなくても，今いる場所から自らの考えを仲間に伝え，地域や社会そして世界を変えるために行動することが求められている．今回の「学生動画コンテスト」は，若い世代の問題意識やアイデアを世界の同世代と共有し，一緒に前進するための企画である．具体的には，大阪大学の学生と大阪大学の海外協定校の学生を対象として，地球規模の課題とその革新的な解決策についての3分間動画コンテストを行った．このような機会を通して，SDGsなどの社会的な課題に関する国際的な対話に学生が参加し，お互いに切磋琢磨する機会を設けた．また，大阪大学の国際的なレピュテーションの向上や，今後の学生交流や留学生の受入促進にも貢献した．さらに，90周年の記念イベントとして，同窓生を巻き込み，母校との絆を深めてもらった．本イベントは学生動画コンテストと学生フォーラムの2部で構成されている．

3.2学生動画コンテスト

参加者は，「どうすれば自分のコミュニティに変革をもたらすことができるか」という質問に答える．コミュニティの1つの社会問題に焦点を当て，革新的な解決策

または助言を提案する．世界中の学生の間で対話を行い，さまざまな社会問題について学び，学生が自らのアイデアと行動でいかに変化をもたらすことができるか，そして大学がどのようにそれらをサポートできるかを一緒に考える契機とした．学生は，自由にビデオスクリプトや画像を作成し，テクノロジーやアプリケーションを使用して，効果的な方法で社会問題を示し，アイデアを提案した．募集要項（抜粋）の詳細は以下である（表1）．

学生動画コンテストの実施スケジュールは図1に示されたように，2020年の12月から6月まで半年以上かかった．大阪大学グローバルイニシアティブ機構のホームページにこのイベントの情報を掲載し，と同時に大阪大学の学生への広報は大阪大学の各部局にポスターとチラシを送付し，掲載や配布を依頼した．学生がよ

表1　募集要項（抜粋）

参加者条件：
・大阪大学及び大阪大学の世界600校以上の協定校・機関に在籍している学生。（正規・非正規は問いません）
・2021年6月25日（金）（予定）16:00～18:00（日本時間）にオンラインで開催される表彰式及び学生フォーラムに参加できること。
・個人、グループは問いません。ただし、応募できるのは個人/グループで一作品のみ。グループの場合、代表が大阪大学及び協定校の学生であれば、他大学のメンバーを含むことも可とします。

作品制作のヒント
・皆さんは現代社会や地球が直面する課題のなかで、どのようなことに一番関心がありますか。その課題解決のために何ができるでしょうか。社会の一員として、どのように貢献することができるでしょうか。
・皆さんのコミュニティ（大学、地域など）が直面する社会課題のうち、SDGsに関連するものに焦点を当て、その課題に対して少なくとも一つ、革新的な提案や解決策を動画を通して表現してください。
・皆さんのアイデア、活動、提案などを紹介する方法を決めましょう。動画のなかにプレゼンテーションやアニメーション、あるいはトピックに関連したオリジナルの歌、ダンス、詩、演劇などを取り入れて自由に表現することも歓迎します。便利なツール、ロボット、ソフトウェアなど、自身で開発・制作したものについてアピールすることも可能です。
・提案の斬新さ、重要性及び社会的意義についても説明してみましょう。また、映像作品として面白いものになるよう工夫を凝らし、多くの人にインスピレーションを与え、共感を呼ぶような映像を作成しましょう。

応募作品規格
・作品時間：3分まで
・言語：英語、日本語、母国語のいずれか　(日英語以外の言語の場合は、必ず英語の字幕を追加してください)
・ファイルサイズ：400MBまで
・品質：高品質のビデオを推奨（ビデオの品質は4K以下、スマートフォンで作成した動画も可とします）
・ファイル形式：mp4、mov

審査の視点
作品は、以下の視点から審査します。
1）動画全体の質
2）コンテストのテーマに関するメッセージの明確さ、共感を呼ぶ力、及び関連性、
3）オリジナリティと創造性
4）動画制作技術のレベル

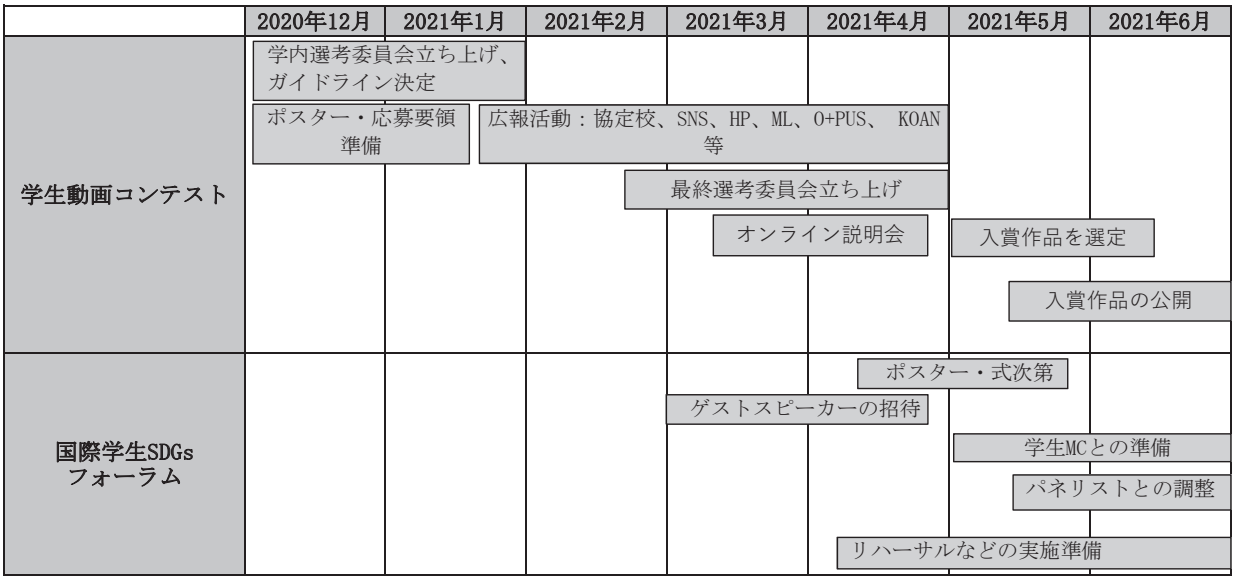

図1　イベントのスケジュール

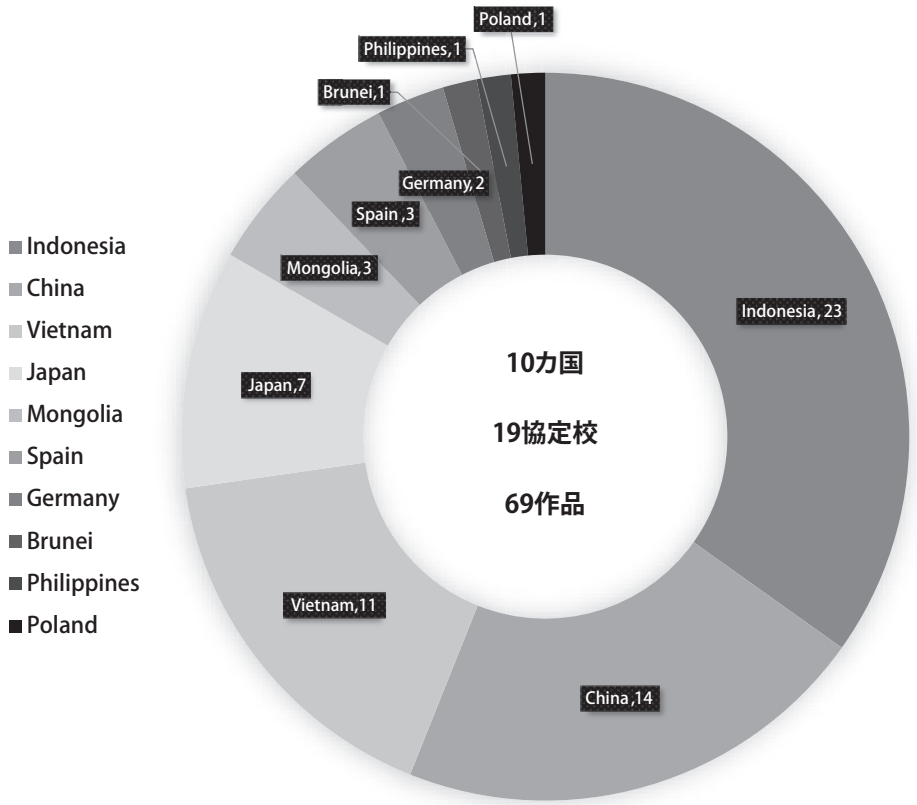

図2　学生動画コンテストへの応募数

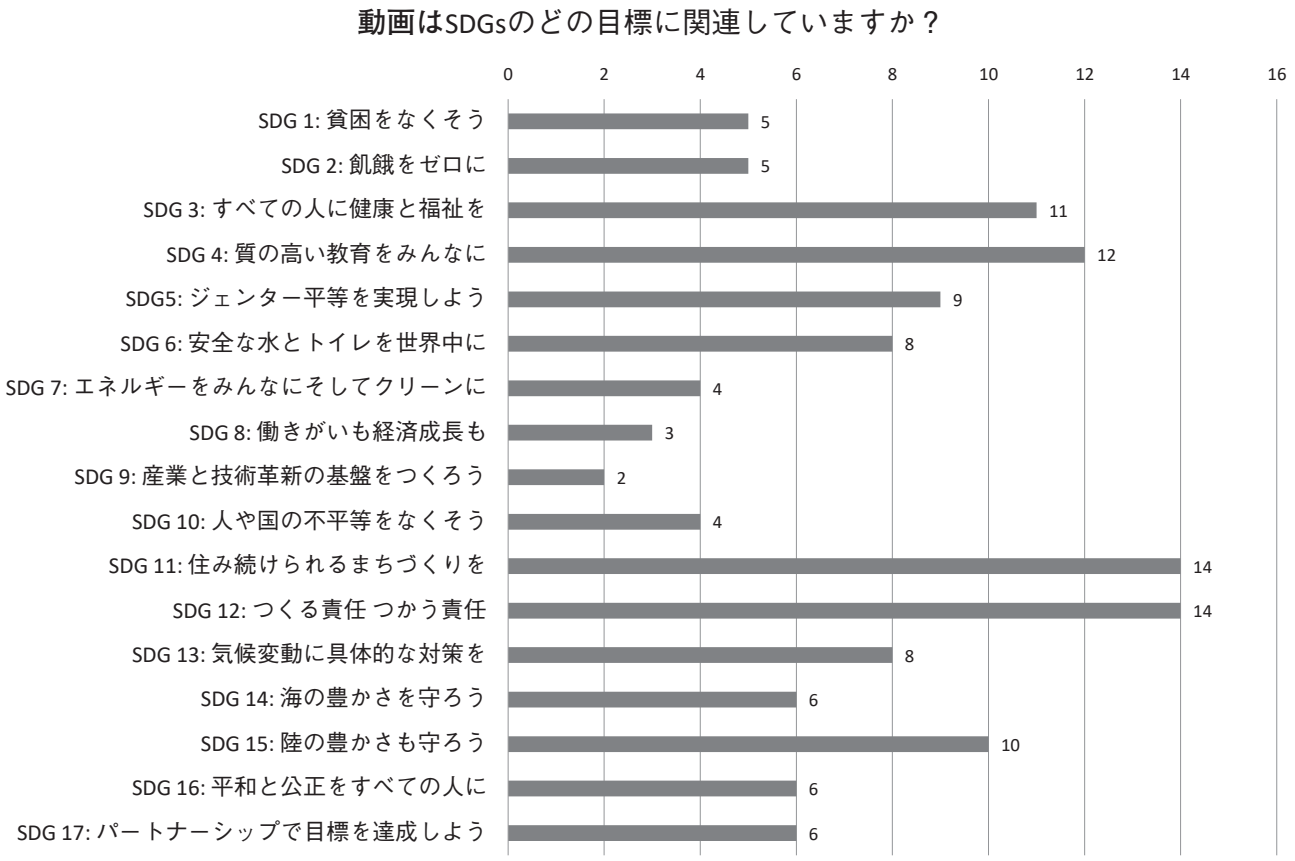

図3　動画作品が関連するSDGsの目標

く利用する施設，例えば大学生協，図書館，学生センターなどの掲示板にポスターの掲載を依頼した．また，ネットやSNSを利用し，大阪大学公式ウェブサイト，大阪大学海外拠点のウェブサイト，KOAN[3]，O+PUS（オーパス）[4] で広報した．更に，このイベント専用のFacebookページとYouTubeを開設した．

協定校の学生への広報のため，協定校の連絡メールに一斉送信し，また国際交流委員の教員や国際交流に関わる教員，海外拠点長に依頼し，人的ネットワークを活用し広く宣伝した．また，中国人学生はFacebookとYouTubeを使うことができないため，東アジア拠点のWeiboを利用し，広報を実施した．最終的に世界10か国から69作品もの応募があった（図2）．作品には参加者のアイデアが多様な形で反映され，プレゼンテーション，物語，アニメーション，ドキュメンタリーなどがあった．大阪大学の学生からの応募は7作品である．参加者の作品は経済，社会及び環境など，様々な側面からSDGsへの関心を示した．特に，図3に示されているように，「住み続けられるまちづくりを」（14作品），「つくる責任　つかう責任」（14作品），「質の高い教育をみんなに」（12作品）などのSGDs目標への関心が高かった．

本イベントの公平性を考慮し，大阪大学の学内選考委員会と最終選考委員会を立ち上げ，厳正な審査を行った．学内選考委員会はGI機構の教員のほか，学内のSDGs，動画製作，映画研究の専門の教員を招へいし，アイデア（SDGs視点）とスキル（動画制作視点）に着目し，評価シートの各項目に従い，選抜候補12作品を選出した．外部から映画専門の教員，SDGsの専門家，若手の研究者を招へいし，最終選考受賞作品を選出した．

全ての応募作品は“OU Student Video Contest” YouTubeに公開し，チャンネル登録者は780人になっている（参考: 2021年10月3日までに大阪大学公式YouTubeチャンネルの登録者数は8110人）[5]．

3.3 国際学生SDGsフォーラム

当日は，学内外の審査員から選出された優秀作品の表彰式に先立ち，河原源太大阪大学理事・副学長からの開会挨拶及び大阪大学におけるSDGsへの取組みについての講演の後，映画監督の河瀬直美氏，ブリティッシュコロンビア大学のムラリ・チャンドラシェカラン副学長から，参加学生へ熱のこもったメッセージが寄せられた．続いて行われた表彰式では，最終審査員の関西NGO協議会の高橋美和子理事・事務局長から「SDGsアイデア賞」，明治大学のスザンネ・シェアマン教授から「映像創作賞」，河原大阪大学理事・副学長から「最優秀賞」及び「総長奨励賞」「入選賞」「テーマ曲賞」等の発表があり，計12作品がそれぞれ受賞した．後半は，2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会のディレクターを務める佐久間洋司氏から同世代の学生に向けたスピーチが行われた後，3人の大阪大学学生による司会進行のもと，受賞学生らによるパネルディスカッション形式の意見交換が行われた．最後に，大阪大学の西尾章治郎総長から閉会の挨拶として，受賞者への祝辞と参加に対するお礼が述べられ，盛況のうちに幕を閉じた．

国際学生SDGsフォーラムには，大阪大学を含め15か国の42大学から234名の学生の参加があり（図4），オンラインによる対話を通して，世界中の学生がSDGsについて共に考える素晴らしい機会となった．また，オンラインであるため，遠距離移動を必要とせず，異なる文化背景を持つ相手との交流ができた．例えば，「ゴミ処理場の巨大なゴミ山の前でもぐもぐとゴミを食べている牛の姿をビデオに収めて，ショックを受け，どのようにゴミの量を減らし，環境にやさしい代替品を作り出すかを考えずにはいられなかった」とインドネシアの学生がその時の画面を思い出しながら述べた．また，「普段からビデオ作りが好きで，今回のビデオコンテストに参加することで，積み重ねてきたビデオ作りのスキルのみならず，自分の専攻分野の知識も活用できた」とフィリピンの学生が流暢な英語で語った．“Let’s do 0.01% better every day!”や“Minamilism, Now!”などの作品を制作した大阪大学の学生グループも積極的に参加者と意見を交わした．

参加学生のみならず，今回のイベントを実施した教職員にとってもバーチャルイベントの企画と開催に関する経験を積み重ね，テクニカルスキルを鍛える絶好の機会であった．オンラインでの開催でありながら，どのようにして臨場感を作り出すかを念頭に置き，表彰式のPPTに音声と画像を合わせて入れたり，入賞作品の抜粋版ビデオを作成したりすることで，工夫した．また，当日の学生司会者3名は英語コースの日本人学部生2名（男女各1名）と交換留学生1名（英語母語話者）に選定し，リハーサルを重ね，学生フォーラムのディスカッションを活発にするための予備質問も事前に考え，用意した．テクニカルサポートについて，当日は外部に委託せず，グローバルイニシアティブ機構と国際部の教職員が協力し合い，設備を使いこなした．このように，オン

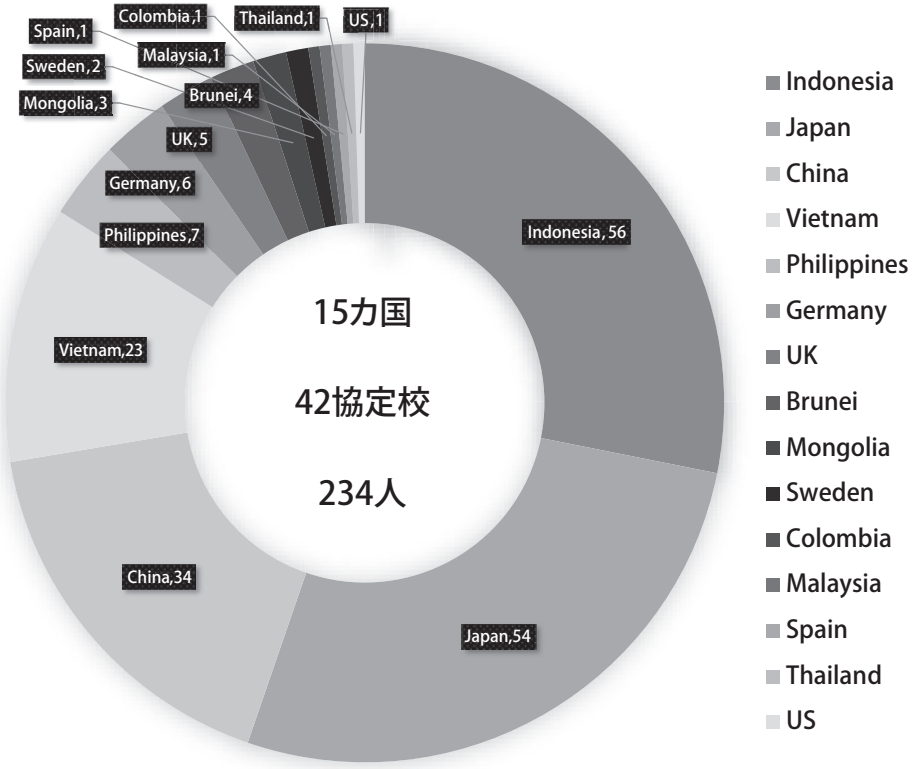

図4　国際学生SDGsフォーラムの参加者数

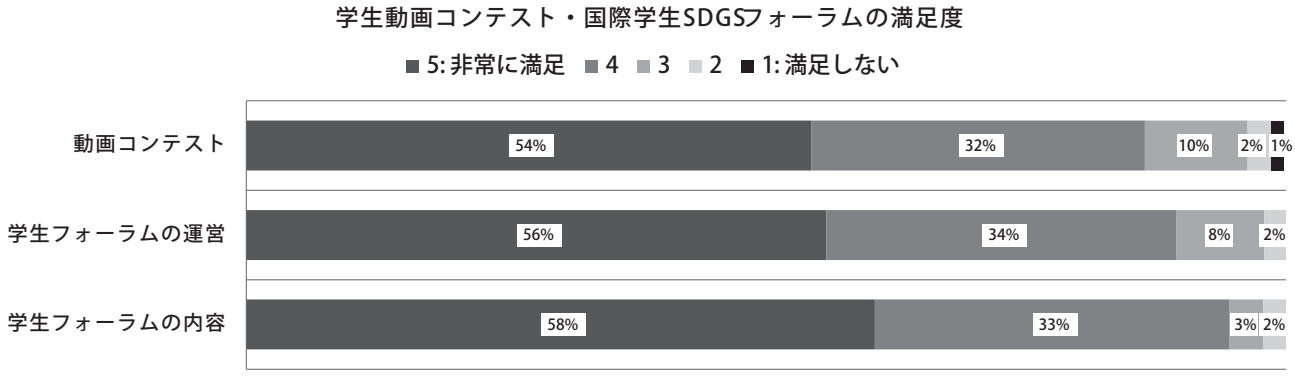

図5　参加者へのアンケート調査の結果(n=95)

ラインイベントの計画と開催に，日本人在学生，外国人在学生，教員と職員など，多様なステークホルダーが関わることができた．

3.4 学生動画コンテストと国際学生SDGsフォーラムの成果

実施後のアンケート結果により，このようなイベントに興味がある学生は98％であった．また，学生動画コンテストと国際学生SDGsフォーラムについて非常に満足したとする回答がそれぞれ54%，58%で，満足度はかなり高い（図5）．

また，参加学生から以下のような匿名コメントが寄せられた（筆者訳）．

「新しいことに心を開くような知識を得ることができました．他国の学生の意見を知ることができたことをとても誇りに思います．」

「このコンテストは私に多くのことを教えてくれました．たとえ優勝できなくても，このコンテストに参加したことは私にとって最高の決定でした．」

「他国の多くの学生を結びつける素晴らしいイベントをありがとうございました.」

オンラインという手法を活用することで，学生イベントとしても，周年記念事業としても，かつて例のない多様性と国際性をもつ，世界に開かれた学生交流の場を作ることができた.

また，地球規模の課題に対する若い世代の意識を高め，解決を構想するデザイン力，自由に表現する創造性，ネットワークを自ら築き行動する意識を高め，グローバルな人材育成に貢献することができた.

更に，海外協定校の学生と共に学び、高め合う機会をつくることで，大阪大学の学生の視野を世界に拡げ，国際性を涵養することができた．同窓生とパートナー大学との絆を深め，大阪大学の国際的なレピュテーション向上に貢献した．このような取り組みが将来の優秀な留学生の受入や戦略的なパートナーシップの構築につながると期待できる.

4. 課題と今後の展望

今回の学生動画コンテストとフォーラムには，様々な興味や関心を持った学生が集まった．自分のツールやプロジェクトを紹介したい学生もいれば，地域の問題について交流したい学生もいた．そのため，気候変動の問題から，消費，ジェンダー・エクイティなどに話題が及んだ．参加者が興味をもつテーマが多様なため，短い時間では有意義なディスカッションを行うことができなかった．学生動画コンテストとフォーラムの実施はより焦点を絞った議論が必要である．次回は，SDGsを「人々（公平性と包摂，健康，質の高い教育）」「繁栄（貧困のない社会，ディーセント・ワークと経済成長）」「地球（きれいな水，きれいなエネルギー，気候変動対策，責任ある消費）」「平和」「パートナーシップ」の5つの柱に分類することを考えている．有意義なディスカッションを行うためには，各分類のトピックごとに学生の質問に答えたり，進行したりする専門家のファシリテーターと討論参加者が必要だろう.

今回の参加者は，テーマに沿った研究をしている大学院生もいれば，映像制作に興味を持っている学部生もいて，知識レベルが大きく異なっていた．今後は，グループを1）大学院生・研究者向け，2）学部生・探求者向けに分け，それぞれのレベルで，コンテストの前に参加者が視聴し，学べるオンデマンドのコースを作り，更なる指導やサポートを行いたい.

これらの課題に加えて，今後のプログラムの継続性を重視したい．プログラムを継続的に実施するためには，過去の参加者と将来の参加者を結びつける必要がある．プログラムの卒業生がゲストトークを行い，彼らの経験を共有し，2～3年後に受賞者全員を集めて年2回のイベントを開催することも考えられる.

更に，大阪万博プロジェクトや大阪大学の他のSDGsの取組みなどと連携することによって，より大きな影響力を持つ国際的学生交流プログラムに発展させることができるだろう.

受付2021.10.4／受理2022.1.13

謝辞

本イベントの準備・実施にご協力いただきました，教職員・学生の皆様に感謝いたします.

註

(1) 国立大学協会第3回国際交流委員会（令和3年1月22日）『コロナ禍を契機として考える今後の国際交流の在り方について』を参照．https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/20210222-wnew-nextintlexch.pdf（2021年12月24日最終確認）

(2) 大阪大学×SDGs 総長メッセージより引用．https://sdgs.osaka-u.ac.jp/message/
（2021年12月24日最終確認）

(3) 大阪大学の教育支援システムKnowledge of Osaka University Academic Nucleusの略称.

(4) Osaka university and Panasonic Universal Sight．大阪大学の教職員，学生のコミュニケーションの活性化とイメージリテラシー教育を目的として103／58インチのプラズマディスプレイを学内17カ所に設置.

(5) “OU Student Video Contest”YouTube Channel, https://www.youtube.com/c/oustudentvideocontest（2021年12月24日最終確認）)．なお，受賞作品は以下にまとめて掲載されている．https://www.youtube.com/playlist?list=PLEuYQjNEkr0HggV_FQAr8QDRMFTB07v8L（2022年1月16日最終確認）.

参考文献

近藤佐知彦・石倉佑季子・中野遼子（2020）「学校および留学生・日本人学生が直面した留学交流に関する令和2年の課題（4月末から5月にかけてのアンケート調査報告）」,『グローバル人材育成教育研究』第8巻第1号，70-76頁.

張希西・李明・エンクトゥルアリウナ・石川真由美・小溝裕一

(2020)「コロナ新時代における国際交流活動の展開：大阪大学におけるオンライン留学生リクルートの実践と課題」,『大阪大学高等教育研究』第9号，41-29頁.